

## 未来のあざさ苑の活用を考える 町民ワークショップ（第3回）

### なぜ、ワークショップを開催するのか？

子どもから高齢者まで様々な世代の方の健康と福祉の増進、レクリエーションなどを通じた生きがいきりの場として運営しているあざさ苑は、平成13年6月の竣工から22年が経過し、老朽化が進み設備の改修を考えないといけない時期になりました。あざさ苑に求められている機能は何なのか、魅力ある施設にするには何が必要なのか、住民のみなさまからご意見をお聞きしたくてワークショップを開催することになりました。

### 第3回目のテーマ 「賑わいづくりや集客向上のために必要な取組を考える」

#### みなさまからいただいた意見

#### ① 「にぎわう施設」や「来たくなる施設」にするためにどんな取組があればいい？

##### サロン・趣味活動

- ・ 入り口にフリースペースをつくり、持ち寄りサロンを開催する  
⇒ 家にある不要品を持ち寄る
- ・ 作品を展示できるギャラリーを開催する
- ・ 高等技術専門学校とタイアップし、木工やOA機器の使い方講座などを開催する
- ・ 小学生や30～40歳代の保護者をターゲットに自由研究やお裁縫教室を開催する
- ・ イベントや販売などの情報を、色んなツールをつかって発信する

##### 交流と遊びの場づくり

- ・ 子どもと高齢者が交流できる場をつくる  
⇒ 高齢者が子どもに向かしながらの遊びを教える（竹とんぼやタコづくり）
- ・ 小中学生をターゲットにしたスケボーパークを健民グラウンドとあざさ苑の間につくる
- ・ 赤ちゃんに触れることが出来る機会をつくる
- ・ こども食堂を開設し、栄養指導も併せて行う
- ・ こども食堂のときにこどもと独居老人が集える場
- ・ 子どもたちと町に住んでいる有名人や企業が交流できる場

##### ちょっとした物が買える

- ・ 小学校で必要な物を販売（上靴やぞうきん）
- ・ 三宅町の特産品（土産物）を販売

##### あざさ苑は、こんな施設になればいいよね…

- ・ フリースペースをつくり、サロンや趣味の活動、学びの場となり、「にぎわう施設」「来たくなる施設」にするための目的づくりや魅力づくりの拠点になる場所
- ・ 赤ちゃんから高齢者まで、色んな世代の人が交流できる場所
- ・ 三宅町で行うイベントを発信する場所

## みなさまからいただいた意見（その2）

### ② 他の施設と連携して何ができる？

#### 魅力づくり

- ・三宅町をまるごと体験できるような仕掛けをつくる
- ・三宅町の隠れた魅力を発信する  
⇒ヤギがいる！、古墳がたくさん、お花見やバーベキューが出来そうな公園
- ・MiMoと連携して毎月参加したくなるようなイベントを開催する

#### お金をおとす

**商工会**とタイアップしてお金をおとす仕掛けをつくる

- ・三宅町の特産品（金ごまや里芋焼酎）を販売
- ・小学校で必要な物品（ぞうきんや上履き）を販売

**三宅小学校**とタイアップ

- ・小学校の給食がとてもおいしい！⇒給食を食べるツアー

#### 学びの機会の充実

- ・ターゲットは高校生や若いお母さん

**MiMo**や**小学校**とタイアップして、オンライン授業や自習できる部屋があるといい

#### まちづくり

- ・町の**スタートアップ事業**と連携して「まちごとブランディング」
- ・新しい交通手段の確保

